

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 関根 智子

研究課題		GISを使用した地域の関係性の可視化に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>地誌学の新たな見方として関係的アプローチがある。地域に対するこの新たなアプローチのひとつに关系的理解があり、他の地域との関係性を通じて、ある地域を理解する必要があるとしている。本研究では、京都市中心部を事例として、地域と地域との関係性について、経済的、文化的、社会的、自然的要素を考慮しながら地理学的に分析し、GISを使用して地域間の関連性を可視化することを目的とした。</p> <p>本年度は、関係的アプローチの研究について、文献を収集し、関係的アプローチについて整理してまとめることを行った。また、京都市中心部を事例地域として研究を進めるにあたって、どのような要素を取り上げて分析を進めるかなどの研究方法を検討した。一方、高等学校に新たに導入される「地理総合」において、GISを使用した授業の教材として開発されている「GISカード」に、地域の関係性を捉えさせることをどのように導入するかを検討した。</p>
	研究の結果	<p>従来の研究では、経済地理学の分野で野尻（2013）などの研究があるが、地誌学では、数は少ないが海外の文献を参考にして研究を進める必要がある。京都市中心部で研究を進めるにあたっては、①文化的、社会的要素を考慮する必要がある、祭事などを取り上げて、京都市中心部内の地域間や、京都市中心部とその外部地域間など、様々な空間スケールで地域の関係性を分析・可視化する必要があること、②京都市中心部の祭事の形成に、ある地域を構成する事象が京都市中心部の地域にどのように働きかけ、あるいは、逆に京都市中心部から働きかけられているかを流動的に捉えることが可能であることが明らかになった。</p>
	研究の考察・反省	<p>本年度は、関係的アプローチの従来の研究をまとめるとともに、研究方法の検討やデータの収集などに時間がかかり、京都市中心部を事例とした地域研究と分析ができなかったことが反省点としてあげられる。次年度も同じテーマで研究を続けることになっているので、京都市中心部で具体的な研究を行い、京都市中心部の地域的差異や京都という都市の個性が、関係性を通じてどのように形成されたのかを明らかにしていきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 土田雅代・黛京子・関根智子 地理総合に向けたGIS教材の「GISカード」を使用した日本大鶴ヶ丘高等学校での授業について、 地理誌叢第61巻第1・2号（合併号），2020年3月25日，日本大学地理学会。</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物	